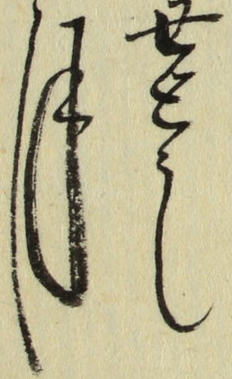
雛鶯

諧謔漢和

於北海大成

三佛哈弐章並序



いろはにほへと
ちりぬるをわか
よたれそつねな
らむうゐのおく
やまけふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

俳諧なるこまき綱目大成目錄

(一) 俳諧之事 ㇐丁目
(二) 俳諧六体 二丁
(三) 俳諧六義 三丁
(四) 俳諧連歌之發句 四丁
(五) 俳諧三ツ体 七丁
(六) 俳諧大意 八丁
(七) 等類差別 十丁
(八) 發句次第字數之事 十三丁
(九) 現在誠ニ古歌 十五丁
(十) こゝろのや 九丁
(十一) そりのや 十丁
(十二) ふうよう三字 廿三丁
(十三) 下の句てをめ 廿四丁

一てんやちまたのよるさくらの
さそはれを何と眺めん名のなかり
らんひのもとの人あのせみ五力
折ふしまれに時鳥こゑ

洛下
如亭

(玉) 下の句ふるめ 廿四丁
(士) 又ゆくすり 廿五丁
(元) そのこすてふ 廿六丁
(廿) 治定しそれを 廿七丁
(廿一) 治定のう 廿八丁
(廿二) 八字ともに有所 廿八丁
(廿三) 指合の歌法 卅丁
(廿四) 句数を去嫌 卅二丁
(廿五) 非神祇詞 卅四丁
(廿六) 非只数之詞 卅五丁
(廿七) 仏くさまろ 卅六丁
(廿八) こそてふそ 卅七丁
(廿九) 之格をもちゐる 卅七丁
(三十) まくらん 卅七丁
(卅一) かそへうた 卅八丁
(卅二) 一句二句ともに成句 卅八丁
(卅三) 同字別吟 卅九丁
(卅四) 神祇之詞 卅九丁
(卅五) 只教之詞 卅九丁
(卅六) 戀之詞 卅九丁
(卅七) 非戀詞 卅八丁
(卅八) 述懐之詞 卅九丁
(卅九) 人倫之詞 卅九丁
(四十) 居所之詞 四十丁
(四一) 夜分之詞 四十丁
(四二) 山類之詞 四十丁
(四三) 水邊之詞 四十丁
(四四) 四季之詞 四十丁
(四五) 百韻并四句歌仏 公九丁
(四六) 執筆法様 公十丁

漢和式

(一)第唱句之事　一丁
(二)二四不同之事　一丁
(三)四字一平之事　二丁
(四)腰下二字之事　二丁
(五)平仄交之事　二丁
(六)漢和一意之事　二丁
(七)對句之事　五丁
(八)假字書之事　六丁
(九)連綿字之事　七丁
(十)二物之事　八丁
(十一)三物之事　八丁
(十二)底通之事　九丁
(十三)朱引之事　十丁
(十四)音訓通用之事　十一丁
(十五)和書假字之事　十二丁

終

(一)誹諧之事

夫和歌ハ云遠き昔より出て清く優美なる物なれバ誹諧の猥りがましきハ不可也況や誹諧ハ俗語を専とし俚言を用ひ古語を嫌ふ事和歌と反対せり然れバ誹諧ハ和歌の堕落したるものと云ふべし然れども誹諧ハ和歌の堕落したるものなりと雖ども和歌ハ誹諧より出たる事ハ道理なり故に誹諧ハ和歌の母なりと云ふべし然れバ誹諧ハ和歌の堕落したるものなりと雖ども和歌ハ誹諧より出たる事ハ道理なり故に誹諧ハ和歌の母なりと云ふべし然れバ誹諧ハ和歌の堕落したるものなりと雖ども和歌ハ誹諧より出たる事ハ道理なり故に誹諧ハ和歌の母なりと云ふべし

此中又ふくめる經よりうへ
八雲抄卅云或抄曰涅槃二佛陀二佛陀三佛陀四佛
陀五指證十二誹一六誹字ト空感八歸依九拉言十二拉云
或義佛陀ハ祈ものゝ心にわたる佛陀ハ淨拉云わたくし也
佛陀ハ覺の字のつゞまれるこゑ佛陀ハ心わたくしの外のよすが
のうへにわたくしなき清淨の心のうへに其の義ありて此
佛陀文字そのものゝやうにの字感ハ向ふ誠て實そのくなる也
訶儀ハいのりの字覺ときこゑそのまゝにて去そのるゝ拉云ハ佛ハ
ひとりなれもとのくる佛なりとくるとき夫とわたくしありてそのものゝそるゝとき

(二) 佛陀六体

心妻統　みなへもろもろ　可金
親妻統　うべなるべしやかごり繩　口言
心利ハ　員ともまふかのぐもん　利を
詞利ハ　ほぐもあるよなもの　莫絶
ん狂　小領城ゆきて部ふりん年八暮
狂　妻統も花ん　こそを

文ま体引ふりまし名未
佛陀の四ム六体とそうるものれこ

風

賤

比

興

雅

頌

神祇

釈教

恋

無常　うきこと斗れおもふ人ありとも秋の暮
表傷　かくまでかりの栄ありやほうこう
誹諧　我がこころ一つもの空十四九月の夜の拳白
追善　人のよ年うさぐり深うんぢうそくもの
懐旧　ふ長の墓所にてよしや君ありて遊もちばさくら
述懐　老ぬれば力やおよびて菊なうけ
俤雑　百歳の二男三男さんしよ住居の
名所　路ぬ荷景観ろくみの居の
発句　もろうろうして山のやさうそく蛙を水の底

晩山　雪舟
秀水　和及
方山　清書
朝柳　知足
見貫　朱由

雑別　引ぬよこもきいかうこぎか
獅俳　みちをもろ人のまや秋こうず
後撰　月花のこころの誰か遊
自撰　あらうしの我もものき秋八九
恋　まぐれやきくれ作りのよう
雑　秋八谷ふ山名ふ乃ほうます
文字　破をもう人乃力うね
吉事　伊勢海老や祝ふ
年玖　吾も句ぬ下よくも

雪舟　晩山
春吟　秀水
三田　和及
子春　方山

詩　　巨海
秋　　長之
たこれ〳〵ふうらいそ〳〵これいま
田子の浦うち出でて見れば
世の中よ　常超
世の中よ　息貫
雑詩　　似空
小春　　一西
秋天　　〃
題旅舎壁　　〃

仁心
暗黒
秋の句

きやうろれつを虫の
晴をのそ笑ふや雪の宿
行りうごくハ月の影や酒
ろうそく
なんと
見えそ
きそも

童羽
たれ

そひおて　柳　元
柳葉落　　芩風
猫のこきつりびの貝や行きひ
卿潟　　驚助
卿潟をとふやこうんさかけうづき
寂寥　　素堂
月前うち折りてをあまをを
老木猿　　色雪
うたはやえぬみてれ楊かな
切戸口　　浪石
傘工が日和を見て三月巳日八日
墨ぬり　　信徳
書よせて一把二人
臧悟　　猿雖
おかめ男い秋風を
納有発　　旧
まひろくゆるれ

かくこくさ　柳　次　調　柳
かやの句　　上　西吟
上童　ゆもも稼の
おもべうろ
書よせて一把二人
入文字と下ろそうろう句　　仝　仝
そろいがらし星に七夕半ば縄　　仝　仝
御乃隊まもりうる句　　仝　宝雄
ゆうぎぼく　　仝　道門
失とありこいひうる作　　仝　水泉
かる鶏うわて　　仝　仝
おもしろきかそうろう句　　仝　不角
三ケ月に初かうれ　　仝　琴風
書ねひり柳れ　　仝　琴風
柳そうれて取野小　　仝　侍秀

二水
和扇
日に
朝水
こぞの
栗水
荷香
言水
和及

仕着えの
越へ
神童

五 俳諧三十体

擬体 日ぐれまでありや春さめ
行雲 天もむしろうや半ば月
飄雪 吹凡相くもやすよ月ひとつ
紙鳶体 筆の雲すこしむもうべし
高山 名月や盛りの影

玉圃
凡兆
やつう
素堂

遠白清池　凡八あを作りて水をたゝへ其ほとりに竹木を植ゑ道路を設けて遊観の地とするをいふ　主物
物数伝不以　数ふるに及ばざるをいふ　俗更
埋世　世に埋もれて名の顕はれざるをいふ　変え
細民紙王孫羅伝　細民は貧賤の人をいふ　男水

花農松伝　花農は花を作る人をいふ　竹春
竹翁伝　竹翁は竹を作る人をいふ　常友
更可笑伝　更可笑は人の名なり　玄来
歌妓　歌妓は歌うたふ女をいふ　来山
撥醜　撥醜は琵琶をいだく女をいふ　奥室
字古面白伝　字古面白は人の名なり　春四

一ト奥　　鶯ノ二足よ成てメうる　　今圭
長曲　　松ゆや日ハ春のかすみ　　維舟
歳本　　うくひすわんや希　花咲垣根ノ分　　ことを
風体　　ひりてこそ鶯やうち山さくら　　心至
浮体　　富士ノ八日を定ル月　　喜角
拙吟　　何をこそ浪花ノ八日ハたりか　　鬼貫
強力　　まを伐て投物ハりやうよの月　　明水

(三)　俳諧大意

俳諧ハ句といふ字にてもわかるごとく今古ノ俳人

ゟも用ゐべし　俳ゟも南朋ノひゞかれあるやうに
ゟも詞をえらび　捨るべくハ捨るべし　俳
ハ連俳両用ノ詞ゟ以ゟ連ハ俳ノ詞ゟ以ゟ
以ゟ以て連ゟと云ゟ俳ゟ連ゟと用ゐ様ノ
ことあるゟと様ニ而ゟ其自俳ゟ
ありて人ゟ詠ゟ云葉ゟうやこゟ
連ゟ俳ゟ俳ゟ歌ゟ
ゟゟ一字俳云ゟ

ゐをこうあく林一字ふとまなこのほ
うひおほせゐるこうろくこうろくこ
よ連乃面こうひかうとみてつくる翁と姫乃面こう
如しまたは面纈よ場くこ百談よ開ひゐ云葉
よもくこまるこうろ川採求遠面狭乃奥そこの翁こうし
ゐくこいひるこハ姫よ面ハくこて但山そぐひそこ
句こそうて帰よるこうひ多ゐ米しよまゐ名乗よ
伝例なうよ抱住ゐ人ゐるゐ句ゐうなうを
平面ゐるこう竹田乃里ゐほうこます

ぞいくる是ハ竹田に郭ゐる後こる姫例もゐこれこ但伝
例ゐくこう日長所ゐいこうこて
よ衣句ゐこいこうよ乃ひ成べきこうや付句に成て眼前ゐ見こもこうと
ひうこべくこをよ心乃姫語くこ伝着ハ長桜ゐ人一見初也
雲こそゐくゐもこそみてゐね芝野ひ
花いこゐくこうこそて白雲こ女人乃見これ
こう処なれこうひよ眼ゐ花こそて雲こひ
ゐれも姫ゐうひ格のこて限こべおこうこゐる処姫ゐこと

なくて毛能こ用かゆみくし長崎くし
まち尺赤能云者ゆがら長句ん全連よなる句う
まいこる八足まきかがらこ小橋八
毛と足まきがし橋ゆうくしいくし連よること七年くる
人もかうもいい非正道能こ進平道船乃まねたしいくる能乃
乃姫ふいしがるん人まん張へ九姫待乃能よなる句ま
けれまをいう船くふこんかるこまいくへ
(12)等類若別
句いこさ、ゆうなくしてん人待能かまりかうこもう句

能とりてきいまりれまん句ま
まいしんやりうそゆうし
事かあいくん意を非
と溢出るかくくも有りへ
とと等れとつがれとこいくし紙通れせくくなうりへ
まま事ふこを唐母黄鳥直換骨集船乃二位とこ
こころ事と乃ときりいけくこれまりこうまて意蒙
まそうりもやこうわさいとわちかふこうして
柳ん虫や九食れ家と乃そうれく

のうめてねこ流屋氏鶯沢死

又

庭の梅こゝのうつくしう咲ぬ

如春やたゞひとまはり二度

右の句こゝの人〻小笠原氏なる

人鶯と花かうの梅を会の家ともてなす

席の名の書の句をもてこゝ

にうつくしひ常〻梅の

根着ちゝいふ物ある所とて

みてもとゞくうの堂

の死れ人のれ曲ゑこゝねぬ

けをいうおかれ〻事

のこゝ句をわすれて

死ぬやうりてう出所

鶯春やそうりてう

こゝ我ハ初ハ此るとうそうの名所

ちゝみ等れまかり具意而造

具語調之換声(フクシヨウ)こゝ人

みれ句ゝと梅うり通ふ小春かう

山門を躍し来りて
[illegible]
客之謂そく棄貽はこれをやしん

(五) 五級白切字

法もの式　高景色より
櫻小筆のう
鯵うろこ
うろこを
とがる

信徳
暮雪
開春
林下
一言

がとる
うり
うり
ひ
ひ
ひ

智足
倍正
一鉄
言泉
春雨
言水
嘉雄
閑之
二峯

常緑
松留
王芝
野水
又成
竹斎
東藩

常緑
松留
王芝
野水
遠邨
方山
風雪

かしまし
う
あれなう
武ぞよう
やへ
うへ
きを
まり

硯滅の親みてかへ　お池の　飛鷺
院長の乃のりうへ曳うてわろ月
菓乃頭蒼根さし机しうへ蔦斎草
うち代声に出てくもまへ聖果會
福壽暮やへ納言の森書乾
らくへる錦に科へ花乃ゝさ
これハしもゆきてふまうれは義に庵
白魚よ價ゆるハそうしみゆれ
貴なねてうす人分の分りほそく哉

嵐　京　一水　萬充　閑斎　蓬　松喜人

いろは
いづも
いづこ
いけら
いらうぐ
いろのせん
何

輪けうる舞てやまして表かり
扇わいろよ撫する行のうん
蠶桁いほき靄おちうし所
樣丸は山陰いづて　綱代　寺
行もさ代本社いは流る夜毒之
義池ゆるゆうみちぐ術てぞ
いろよさん御札さ濃く意ゆの
五月雨何を菜よ及ぶもの人
水御いとかく何その見へりとる

何香　千丸　素琴　嘉蘇　嘉栢　月汁　桁華　翠君　松草

人家ちかくて夜ふかき
みとりこだにもなかれず夜乃暮　蕉風
ものかなしそうに死ぬ秋乃わめ　雨日
色をねだそそる粒くりと鈴虫　仕三
そそり落りてゐる初こおろぎ　常牧
笑判てかるがるすぐれ敗　明水
のあるよいつ迄もつて表一穂　玄蔕
ねがひう祇園乃ひむろ　季吟
ふいごをむく畑家老　朝稼

いざろうそく月かげ沢風よ一かしき　芭蕉
月かげ沢風よ一かしき　仲什
如重ね舞よ物乃あん　鳥隆
みるうれしうそくよりうそく　幸佐
蓮葉を見くらいかな　二后
肉芝へを必義きそりう喜蔣壽　仙夏
おもしろ義乃ほそ十に夏と弱こう　丸雪
つゝみ鞋　物　将
吟庵をさかしくもうれん　松不

これは其しハひとつ文ハひとつて切字ふたに有ハ一字かな
但此ハひとつハひとつ其とこれはなしかならぬ切字の中也

二字切

月と蒼しや雲まの星や七夕　風虎

浜もし川尖ともしん二ッ星　風山

三字切

うれしくみよ竹乃まもなし梅乃花　青窓

㊅ とめりし乃切字

蘇おちハまざとも踏ど花乃雪　立雲

藁ならハ福乃ゐ匂ると門の春　一春

㊐ 上よ切字有て下とも留

燦やしくかくれる京乃みかん水　梅岡

是ハ上五文字ハ字あれと上の中の字有ても此やうなる之

㊐ かり留

芳乃ひ茶屋もむくる人ふ成とかり　可全

初秋と伝りなくとふ猿よ成とかり　永山

是ハ上七文字の論とふと押へあいかりと乗ゝ寺作のゐ申也

㊐ 三名切

三段切ともいふ

用ゐ古桜やまかくるん初鰹　青藍堂

同 大田う
うらうらてこそ
うらうらめでたうらうら
同 雲州切
照らうらハゴロやかうらん 林園
狂ふ白ハるゝ三世をこゝに遊ぶ仏
初んの春 と人参 生まれ
同 切字めくりして
毛ハくこそ 野山 真宝

余ハ京にあとくに
憧れてかゝる人を乃 地 末廣
とべくと半 鳥ハめくり
右切字を一六枚とかぞへる
乃紙子の切字こゝろくに
句とゝへ作るてゝゝうらん
おゝれ かる 乃
こゝろまいつまでもこゝろ

…ける人ぞなりそまう〳〵白と言ひ
松ぞ春なりしらつゆく秋つゆう
みどりきこの二字に連歌
殊なり帝國の俳人の用ひ
白とそうして可
(七)現在の形 そうき形
現在の形 美白ハかくろ氏
そうき形 平安朝ことばの用法
これ〳〵いつまでも雅士まで
(八)こう 白云 現在 未来
かう〳〵 きう〳〵 一種〳〵 いろ〳〵現在ニ
べし〳〵 かう〳〵 みう〳〵〳〵 いろ〳〵未来ニ
北海の現在未来そいつまでも
まう〳〵 ひう〳〵 加え
これ、初字ま
(九)おのれ 不の形
たらざる 手 ちらぬ 不
おのれまれ下ひの字ゆるい手の字

のほりぬもしてもとまかはふとふりねとまて切ゐ抑も
みなおわしねこらいけりまおなりて手ならもふりね
ましと咸まずめり
見てね きえね られね そそね おあね
をへけせて えかれ ちりはしさあるねの恐きま
くまずるてえたちりけるのはしとまで薦慕ひ久きし
⑩七川のやれ五萬
まあひのや あや呑去甫もさく嬉し 歳よ
此やいみ安良切字まも 然 要もわらんを留吾明もよし

ひともみかくとさまるん
切や おりの総やまどまて茎もの残さるん
此やよまよ着とえいてとまかりしも為了す
桂や ま泉てれかろ氏見の木の万まや
疑のや はるじさや宣しぞ物とてめをせん
此やよまよ有田いてともよとそまうすなや嘆るん
寄や動しん又うきがひ移るやありて神の世とや
ころとゆんれもやのれて
中のや 宮と称 櫻や 穂り寄みえて

も　何度も道ゆきくるしくて
かるね　花さく世よ多いをしからん
ふく　都ぶり旅どろくさくて不自由やうて
此糸うた
　設生舎跡よみ給ひて
給よ云こゝろ白ハ設生舎ゆゑ
そうてゐをとゝのゑ松よみ
二行抱ゝうら白もかう
家へ植をし花とも
みせわつきれりてとゝのゑ
ありうそ　そうろうそ　ありうそ
うやうわ虚字ある時ハ
てもとさうろ
(十)引引よりこ字と押字
ぞ　魚乃名と何ぞ引て
ろ　美よ助ゝ漆よろて
よ　いとうこと引也ふうろて
あらよそうよ字ありてとゝのゑ

引くむう人くいやまう
(十三)ようこそひろう字者てて密多住福
松ニ一句よりやーよ何いう
うこそひろ字者てハてとも引ふくてくれいつまこそ
ぞともろうにとりてくる
いうよ いうまちんありくむりかまくく
いやしう いやーかよう実檀の松れ有みえて
いつこ やるみいづくうことはそりとりてどうく
落よ去こうこそひろ字者とのくも眼希よう

物とりこそうのあくてこ多ありしれ字文
(十四)下ろ句よりてとう
落みに相ハちろうくうも
やよひこうり八飛とたりて
此二句よ町人字うてこまでユまろへー
(十五)下れ句よりこ免
編ハ芝八り月いぶう名

下れ句ろよ安ハ業就くうーりていのおろひて其格と
用ひきこうねきいりて秘するをわといのこう多

まちもうけ屋と猫乃手も借
とのゑびすくゞ多ハ列りとうじて多く
藏庇(クラヒサシ)杖(ツエ)ありうち
下ちや白乃ほくとうかぶりそけうそん
とまくそんさんくてもやうり
佛よせうひ証誠(ショウジン)そくさほく
ゐ傳ま去下ちや白乃ほく留いろよそひこりるも
ゆくずいづもそても留りなと

まち業乃あいそ場(バ)二ろうる
小棟(コウヤ)龜(キ)とんおゆくる
門法乃家うかけりもる
伏見人形場をゆ
まぐ庵門(ヒラキド)ちゃ
細(コマ)りかるゆろ
幕かくれ日ろうる
遠う大ひろりうて

ゐそのの花紙ゆ
ふうこのめうそうそうそうそ
ゐるの外ふうくうくてこ
もりひょうこう
㊀これこいひていへのせ
ねてせり
ねうていくて鮮
眼とこいそのせ
廣ひしそ煙
言ひ葉ヨ膏

十九
十八
十六

傳かんしこいそくん人をうやまん
親ひかるこうひ人ひむかう
筆跡のくかるおひをやうん
こうか　ふうこうこう
そこいそのひこう
㊁いひくふるおひ葉
伽羅こうそ待こうそうる
落風よ何ほ使こう
そんそうこそ用ひ

帆ことい本ろひらりうる れ

(九)そねま
私をらんこうぐらんあおぞかしなと答いうる
いつまいさいいくのこうひなうくこん
こめくまでを
あそ　ねらこうかしくんやこし私ろうん
これ　もこな我てれをれ被ろうん
いろ　そやおいくこうとをこうりん
いり　待ゆまよいうう開ひまくうん

みろうこそやい白髪ろうん
右おこうくをぐるる及ろ
自所こていらしこと先おこ
ぜきなこくいくお五門のてう
うろべし

(十)落定こてくねま
なるびてこうこ
私乃雪張ろきこうとらりん
ねうろる落去ろ私乃ろうん

と　　隊(キリ)みうり色(ゲ)或(ミ)こうへでいろん
て　　契(ケイ)いろとも凡(ボン)こと
かくふくくうくうくうしめる事(コト)
ろそれ細(コマ)かに傳(ツタ)ふる抱(ダキ)置(オキ)かてこゝを
得(エ)へしこれに改
(三)かこのくん
こめらん初(ハジメ)とをろくん
ゆくうとはねざしんおりれろん
こをうかねも角(カド)銭(セン)の事(コト)

(三)活字(カツジ)ハう
ねのくろ流(ナガ)ろりて
説(セツ)うあてそるみもも
(四)かうのみ池又
かうのみ　みうそびるる
ほそうこうふべし
池又　みこをみ人て
ふまるべし
(五)八字(ハチジ)付(ツケ)所

文字梅にはたもりて取し
ものゝ〳〵〳〵次は
ものゝ〳〵〳〵七文字ありて
句作のうそ〳〵〳〵

ものゝ〳〵〳〵連歌
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵
ものゝ〳〵〳〵

三句 旅
三句 生類
三句 植物
三句 名所
三句 衣食
三句 陸物
三句 陸草物

三句 生類
三句 植物
三句 衣食
三句 國名
三句 器
三句 天象

(加)同字別吟

春日(カスガ)は多(オホ)くも見(ミ)ゆる鏡(カガミ)山(ヤマ)
鮮(ヒシヤク)物(モノ)命(メイ)は命(イノチ)
関白(クワンパク)は実中(ジツチウ)
操行(サウカウ)の軒(ノキ)は花(ハナ)
天智(テンチ)天皇(テンワウ)は天目(テンモク)
子孔雀(クジヤク)は雀(スヾメ)

(加)同字別吟

春日(カスガ)は多(オホ)くも見(ミ)ゆる鏡(カガミ)山(ヤマ)は名(ナ)所(ドコロ)
鮮(ヒシヤク)物(モノ)命(メイ)は命(イノチ)は弥(イヨ)生(ヤヨイ)代(ヂ)の物(モノ)
関白(クワンパク)は実中(ジツチウ)は南(ナン)無(ム)の水(スイ)
操行(サウカウ)の軒(ノキ)は花(ハナ)は雑(ザフ)俎(ソ)
天智(テンチ)天皇(テンワウ)は天目(テンモク)は茶(チヤ)
子孔雀(クジヤク)は雀(スヾメ)は蘭(ラン)

嗣ぐ日も暮も山も表　今朝より人今皆是
年是日も今のそのかみ　昨日より日陰
昨日より不孝月日　天下下下
世のためひとり上戸　天下下下
芙蓉より泉　海月　西王母より　百合
花より石竹　公孫樹より　大根
准ずべし

神祇之部

大嘗會　新嘗會

法　荒祭　社擔　社頒　社司　社人　社家　社領
元あれ　玉垣　瑞垣　御門　宮巡　行事
拜殿　御供　齋戸　稱宜　祝部　社務
長官　おりこみ　御供　御祓
御祓　支配人　夏祓　水無月祓　流祓　御麻

神呉　冥祇あいつまる　神輿　參　赤氏　榊　弘　三代二九
御幣　大麻さ　祓　之を　倪宣　夢ノ想　多　御湯立
拍當手　通拍　忍拍　送り一ハで　御閨　御贖物　本殿　俊元朝
御火焼　燎　斎籠　物忌　誓文　紀請　氏神　氏人　本
祈火　切火　鉦　守　三寸　洗米　終る　天満宮　朕
設生舎　いまわと　ころ　若永　徳登位　祢ぎ
參しく　常陸守　東柱　乙女　例幣講　初年

小忌衣　大忌衣　庚申待　月待　日待　遷宮等
非神祇祠
元方　年法　男山　作係　龍田姫　橘姫
祇神　移文　發生川　墫山　伏柳　上三の後
只義之趙
佛像　本像　形像　生像　本尊
儒祖　禅師　律師　長老　上人　和尚　国王　東堂
元祖　祖師　門跡　院家　国師

青産 産主 書記 行堂 僧正 僧都 法眼 法橋 阿闍梨 指授 灌頂 禅門入道 叡心 新発意 比丘 比丘尼 坊主 大坊 六坊 里坊 僧 老僧 衆僧 小僧 寒僧 出家 沙門 業門 釈氏 沙弥 寺 律寺 奥寺 山寺 古寺 里寺 会仏寺 荒寺 三井寺 初夜 後夜 晨朝 昏鐘 暁天 講堂 法堂 仏殿 塔 塔婆 三重塔 宝塔 回廊 九輪 相輪 鴟尾 金堂 僧房 庫裏 庵室 庵室 山伏 吠陀 輪宝 厨 眼蔵 居士 行人 隨数 念珠 石八 数珠 悔み 花田 鈴 掛子 仰しらぶ 修行 通夜 唱食 鉢扣 看経 加持 五輪 素絹 十徳 吠襟 袈裟 金剛杖 杖 喫飯 絡 亀絡 読経 鮮は 木魚 瑠璃 経帷子 斧 茶 灌頂 施我 布施 談義 法 論義 座禅 僧 地獄 閻魔 地獄 流転 三界 十界 常住物 三界 十界

宿業常香 楓 雨 五山 法門 等 究竟 悟道
陪堂 斎 帰時 六欲四禅 梵湯 画向 投岸 余日
遠客 芸史 義述 佐輯 六通 具投 持戒 飛錫 外道
飯子 筆 心室戸 閉物三乃車 火宅 禁足 風色
講佛名 字 落名 祖師 名 義苑 支雪 支行 支書
寶教重 三具足 華懍 天蓋 九名 墓
悪 非天 義納 高野山 日校山 絶 名 非紙 尺義

嫁娶(ヨメ) かせ 嫁娶 聟入(ムコ) 嫁入(ヨメ) 婚礼(コンレイ) 新枕(ニイマクラ)
あそこしらい 貝桶とも云 かよひの[illegible]

若後家(ワカゴケ) 傾城(ケイセイ) 白びやうし たいふ 太夫 かよひの[illegible]

遊女 揚屋 廓 くるわ いろ里 遊女町 わくさ 有近

傾城のくるわ ひとよ 一夜づま 四日 [illegible]

かよひ 付さし 長崎丸山 まるやま [illegible]

[illegible] もののひおとこさ [illegible]

遊女(アソビ) 町 女郎 小姓(コシヤウ) 二舞(ニマイ) 舞子 歌舞妓(カブキ) 野良(ヤロウ) [illegible] 念者(ネンジヤ)

嫗(ヲウナ) 女 妾(セウ) めかけ 若衆(ワカシユ) 二世者 [illegible] 若衆

[illegible] おもひ人 枕かゝる 恋 [illegible]

衣々(キヌギヌ) 別の袖 密言(ムツゴト) 寓言(カタコト) 私言(サヽメゴト) 私語(サヽメゴト)

浮名(ウキナ) 浮名たつ 切れ文(フミ) 筆 [illegible] 袖しぼる 流れ 門立(カドタチ) [illegible] 泣きすがる

信夫(シノブ) ちぎり 契(チギリ) ちぎる 契 ちぎりかたむる 契 契れる 二世の契 伊達(ダテ) だて人

ひよくれんり 比翼連理 ひよくのちかひ 人の心 人めの関 [illegible]

人目(ヒトメ) [illegible]

[illegible] 浮 うき人 色好(イロコノミ) 色人 色男 [illegible]

恋の闇 [illegible] みだれ心

[illegible] 侍(サブラヒ) 下侍 [illegible]

姿見(スガタミ) [illegible] 鏡の面影 石(イシ) [illegible]

園よりかれ [illegible]

まさつきたる かくこの扇 くさみのくに かくこの香 三ツケ 出家為
くさみさたる 形見 かくこの衣 かくこのふところ かくてこれかくこ
袖こそあれ 歌比丘尼 十五夜千リ キ 眺望る 眺望る
日吸 こころろ ろくろ えんひとふ 強白髪
つくろひて 父無子 白ひ髭 白のつそ 形紅 懸想文
れ狂 肉額 化粧 子持鼠 化くらべ
おもかの兄 雲の果 まろびわひ 誇言 くもの中
心中 やもめ 後くびゆうふ おとこめくみ

都屋ごこ 下級 ろうかきこ 男とこがん
指きる りくく ろうきこ 亀甲にひ ちひさ
まついつくろう 手まなこ
有さくの中 俯 面乳よう 雛面人 くろろうく
抱乃袋 後めくる 遊まくろう 眺望
馬くろう 化 古ろく
親遊女中
嘉祝寄 揚き妃 武義 ふくく
ろくろおりのれいつまこと
非売冊

後家 賤女 市女 下女 樵女

㊂ 無常之詞 哀傷

婚干ム ろくろ野 死出乃山 棺 ろう 硬也 墓 中陰四十九日 供 人魂 力業 抔会 殷切 自害 白髪 冥途 黄泉 喪

髑髏 ひろう 幽霊 ゆる 抔 ㊃ 述懐之詞 幷 懐旧

注荊 いもん人 筈人 筈語 筈代 いう人の 老 老くらめの老 老の命 老くまる 老の姿 老ぬ 後家 後室 命 うき世 男 親子 不幸 世業

晩 免 隠居 隠着 遺世 苔の衣 骨 深

眉 霜 後任 抔る男 寒 家 貧 衰

孤(イツ)立(リフ)
古家(フルニワ) 真(マコト)に(ニ)過(スギ)ぎ 摺(スリ)切(キリ)(フシ)不(ア)仕合(シアハセ)
継子(ママコ)
孤(コ)独(ドク)の人(ヒト) 後世(コウセイ) 備(ソナ)はる 備(ソナ)はる状(アリサマ)
(ニクロミ)
憎(ニク)き 奉(タテマツ)る 同(オナ)じ 遠(トホ)き

(平)
非(ヒ)違(イ)懲(コラシ)めの詞

(聖)人(ヒト)傷(キズツ)之詞

雲(クモ)の上人(ウヘビト) 殿上人(テンジヤウビト) 武士(フシ)
侍(サムラヒ)

士(サムラヒ)の家(イヘ)なども(モ)つゞきて(テ)多(オホ)く(ク)
侍(サムラヒ)兵(ヘイ)等(ラ)奏(ソウ)者(シヤ) 使(ツカヒ)者(シヤ)

医師(イシ) 師(シ)の付(ツカ)ハらる 傷(キズツ)ける人(ヒト)を 佛師(ブツシ) 繪(エ)
傷(キズツ)く者(モノ) 師(シ)
筆者(ヒツシヤ) 僧(ソウ)侶(リヨ) 比丘尼(ビクニ) 尼(アマ) 農人(ノウニン)
(レイミン)
叡面 伶人(レイニン) 舞(マヒ)者(モノ) 猿(サル)樂(ガク)者(モノ) 弱(ヨワ)法師(ホウシ)
(ハシタ)
馬子(マゴ) 番(バン)匠(ショウ) 獵(カリ)人(ビト) 獵師(カリウド) 漁(スナドリ)人(ビト)
(ナガラヘ)
月(ツキ)わるゞ 氣(キ)のあるゞ 月(ツキ)代(シロ) 死(シ)のあるゞ 死(シ)の父(チヽ)
(ヤモメ)
嬰(ミマカリ)寡(モヽ)守(モリ) 狂(キチガヒ)人(ビト) 御(オン)乳母(メノト) 聾(ツンボ)者(モノ)
(キヽヨリ)
聾(ツンボ)盲(メシヒ)女(ヲンナ) 盜賊(タウゾク) 夜盜(ヨタカ) 強盜(カウタウ) 山盜(ヤマタカ) 海賊(ウミノカミ)
盜人(ヌスビト)

(ヒキモリ)
螺(ツブ)寃(ヒキモリ)守(モリ) 狂(キチガヒ)人(ビト) 御(オン)乳母(メノト) 聾(ツンボ)者(モノ)
(キヽヨリ)
聾(ツンボ)盲(メシヒ)女(ヲンナ) 盜賊(タウゾク) 夜盜(ヨタカ) 山盜(ヤマタカ) 強盜(カウタウ) 海賊(ウミノカミ)
盜人(ヌスビト)

嘉吉君　足下　長着嫂妻訳子伯父伯母
祖父　祖母姑舅　娘婿甥　孫後嗣兒嗣阿博母
師　諸叔父　仕丁　野豎　傾城白拍子　陽女　遠ク者
屠児　男女　友遠内義師匠　唱哥　同宿
弥蔵主　猟士　橋守　舟長　知音
針和　孤　古野ノ國插　狂人　儒ノ字ヲ書ケル
孔子　孔門ノ賢人傳ヘ　其ノ人傳ヲ見ルト
ありてとりどり　儒者ハ人傳ヲ讀ムトイヘドモ
ソノ人ヲ知ラズ

圖非人傳綱

東宮　皇女　門跡　公家　人倫　人道　化人　出家
仙洞　新院　女子大君　女院　本院
門一家　六親　兄弟　給仕　典薬　下戸　眷屬
祖師　橋姫　孤君　未通　外科　二人　老女　傳大勝
醫師　人数　聾　唖　盲目　代筆　用文　文　筆
ひとりごとを　酒の辞　いつもの社會ヲ
いろいろ人傳ヲ　ひろひ　ひろく

歌 うたうら
拾得 ひろいえ
私 わたくし
如来 にょらい
菩薩 ぼさつ
障子 しょうじ
格子 こうし
障子 しょうじ
窓 まど
門戸 もんこ
家 いえ
小家 こいえ
民家 みんか
高殿 たかどの
楼 ろう
楼上 ろうじょう
宮殿 きゅうでん
宮 みや
殿 でん
順礼 じゅんれい
文 ふみ
巻 まき
紐 ひも
解 とく
結 むすぶ
和尚 おしょう
法 ほう
福 ふく
行 ぎょう
人 ひと
民 たみ
坊 ぼう
北 きた
且 かつ
墓 はか
生 せい
衆 しゅう
一族 いちぞく
雑兵 ぞうひょう
本 ほん
井 い
屋 や

圖 居所之部

屋 やね
庇 ひさし
軒 のき
天守 てんしゅ
城 しろ
亭 てい
玄関 げんかん
廊下 ろうか
畳敷 たたみじき
居間 いま
寝所 しんじょ
部屋 へや
路地 ろじ
棟 むね
二階 にかい
棚 たな
床 とこ
庵 いおり
里 さと
村 むら
天井 てんじょう
襖 ふすま
間 ま
納戸 なんど
縁 えん
桐 きり
箪笥 たんす
衝立 ついたて
火燵 こたつ
炉 ろ
内 うち
外面 そとも
簾 すだれ
井筒 いづつ
走 はしり
豊 とよ
暖 だん
炉 ろ
囲 かこい
炬燵 こたつ
裏 うら
礎 いしずえ
簀子 すのこ

圖 非居所之部

寺室ノ外ニ堂皇屋内裡堦蘚ヲ宮
弘眠義庫柔柱ヲ云 寺堂ノ名 龍

(豎)秋夕之詞

邪不同ヲ的星七夕棟梁要題昊天衰ヲ
稲妻宵ヤ曙暁ヲ雲ヤ雨ヲ名ヲ月ニヲ
月入ノ方ヲ名明残晴雲ヲ衆意ヲ捧双綿
往者ノ帝炬灯籠ヲ行燈燭臺漢史
紀史理史ヲ歴史ヲ康ラ
ヲ寝ノ数ヲ史籍別ノ名
龍苔延ノ名ヲ紙悪射ヲ紙衆雲
蝙蝠螢称ヲ史油筵
池実外ヲ博奕ヲ走ノ衣袴博奕帝燭
手燭舞ひヲ枕数嵐鳥ノ疲初ノ称
晩狩人鬼蒲団綿灯ノ染文儒士焼火燎

ねじこ天の川星と唱傑名長く細代床邸
契庵女化物秋冬過君

(異)　旅秋分朔

灯燈籠雲そゝく秋燒火
夜半曉そゝく秋燒火
床山伏一秋酒稽電明るみの鼠のゝ鳴くゝ
入酒み三ケ月出ル朝朔そゝく月後庵

孫の床伺狩入桐ゝ幻愛敬

(墨)　山類之朔

山嵐岡洞沮坂谷沈尾三高根蘗渓路
精松木炭竈山姫山姥浮路小道小路松路
山刈梨れ山鳥まく山刈
葛城ゝくされ出抔丸折畑ゝ
(異)　旅山刈朔

鷲の峯　雪山　高国　渓路鴉　こけのえもん
富士河　龍田川　木葉流　鈴鹿川　秋鹿川　小野
吉野　くらわく　岩橋　松人　炭焼　渕津川　乱木水
宮下宿　葭猿　越路　宮人　乳三路守
古河鴉　岩屋

異水高之部　あの名　見ル名
海漲渓流　山渓　清水　岸洗川　水門　池

願行　鶏泉井　森津　湯治　波的水　流舟橋
紙細物　貝清水　剛物　水宮　水柱　温泉　塩焼
深木水高　絶覚下　桶深　桶蜻蛉　士　程々
和布よ　亀　水鏡　身元　千多　都多　鳴藻よ
住虫　奥錦乃　橋振　衣秋不　教生と云　御振多う
渓家　憂漂　憂木　水屑　地結　藻と焼　こうか
藻　遥芦　渓萩　枯芳　萬葉　蒲　やや　この藤　藻へ

麦流れ氷魚田野月に出逢 小鳥 秋湊 森本

里の廻堰 水を漁火 灣 但吉が井 三井寺 浦ゆる

志賀入江 夫津 明石 雪 松嶋 二嶋 象潟

梁 釣り 雁渡津 浦ゆく雲 八郎 湊本郷

(五十) 能登 雪 和

雁渡 志賀 但吉 大野 雪浦 琴 橋 関川

高代 笹屋 横川 小関 柵 うき 砧 暁

萱 さゝら波 龍 雪浦 岸 早苗 天水

岩魚 蓮 肉 里 貝 藁 三絃 流 千鳥 二上

貝 龍の橋 琴の橋 乾潟 氣

神祇 調 ぜうび 氷魚 よいつるまで 石に祇

うら 歌 ひゞき 雲 琵琶 多賀

春　青陽　青帝　蒼天　東君　韶光

正月　上陽　孟春　夏正　ひつき　睦月　初陽　大簇　陬月　祝月　初月
正月ハ祝祭ゆゑにひつきといふ　睦月ハむつまじきゆゑにむつきといふ
てい月ともいひ又正月ともいひ又一月ともいふ　寅月ともいふ
正月ハ寅の時に始まるゆゑ也　又正ともいふ
元日　上日　上元　一年九　鶏旦　三元　三元三元ともいふ
一年の一番目　改旦　初春　初日の出　初日の光
あらたまの年　あらたまの春　あらたまの月　あらたまの日
うれしめでたの春　うれしめでたの時　うれしめでたの月
うれしめでたの日　うれしめでたの光　うれしめでたの春
うれしめでたの年　うれしめでたの元日　うれしめでたの朝
うれしめでたの初春　うれしめでたの初日の出　うれしめでたの初日の光
うれしめでたの三元　うれしめでたの三元三元ともいふ

四方拝 付り佛 星とさるハ 元正寅乃時をつゝし見属星をとなへ天地四方乃山陵とをがミ給ふとなりは
見しをたひ宝祚とわかりたをそ給ふや星とさるハさし大事
其乃星本命星とや行七匹作くるかハ今や事つや今在家乃普俗
わかくおゝらみくまり りちゐ後 強飯大根いりのかやこ 黄
なかも其みて成べし 歯固 ゆゝりく 歯除 うくら白
人ハ歯を以て命をひらくるとゝらふ字とく 椒柏酒 椒酒
記ひとくしむそくくめいよのひるくすひくとしく 御薬を供らて
屠蘇 是も元日に用ゆるよし事文 乃り山辞乃沼あり 元日
屠蘇 屠蘇 白散 度嶂散 天皇さらとききこしめれはちん其子
節会 七曜御暦 法司奏 氷様 腹赤 奏 国栖奏ふとも笛 網賀 よ安と撰のまつしめそ祝をするよし
小朝拝 朝賀 朝拝 きおしめして 元日あれし拝 奏賀 奏瑞付
しゆるゝまし とりや奏賀奏瑞も此時行ふすとく はた天みとを 小朝拝ハ
元朝上牛 院拝礼 一日院奉れ人々院乃御所へ参りて
拝礼 作 元日行ふ事 とつや
祇園おけらまいり 祇園社の神事 元旦寅の刻行之 年
徳乃かミ 恵方棚 ハウタナ 歳徳神
毘沙門乃くらま 門乃神棚 門松 かさりまつ
其の悦ひにおかいたし 松かさり
かけりなし かさりなは 大かさり
かさりなわ いゝ わ
いせえひいかけるか 柏ときはきさかゝみ
まきさくて酒よ入て のひさし 鹿のまもりして
からるか 元日 雑煮いはふ
大ふく 若餅 具足乃餅
わんといはふいもいの ひさびらふひのくる

のこされごろうふとでし　蓮葉かさるみ
おろりのこかてしまし
田にろうりのしろうこのろうのや
ろうかき　柚かう　梅みどころ　描かる
秋のこのこもかさろ　元日　俵子　生魚
とりろこ　三九　玉
ねそしく　胡麻ねて　ろうごいこ　破ろうや
三葉ふ　蕗ひしろな湯　煮こごめ　ろうろで　免
ろうろうめ　ろうろうめ　永玉祭
初雨　初すす　三物　秋田雨　叔言

初雪　玉ぶと年　ろうろうろ
初芝ね　初暦　くろみろ　書物　ろう　物
ろうひうめ　ふ番　伐分　歳竟
くるごふ　猟ろ　多波　なそ　ろぶ
おさろ　せちふるまい
桃符　水葱　桃枝　桃枝　水葱　水葱
三て　両忌　ろうろうろ　ろうろうろ　ろうろうろ
板桃　枝分　木桃符　ろうろうろ　ろうろうろ
ふろ　ろうろうろ　ろうろうろ　ろうろうろ
てふろ　ろうろうろ　ろうろうろ　ろうろうろ

夜をゆるく人めをしのびかへる人かしくて物ゆきを見て[illegible]
ゆくへしれぬ翁をみれどもくからぬやうなそおひぐらくれすぐ[illegible]
懐の中よりおさめて子供見ては数ならぬ翁らり人の元日みゆる
又人形とらけて書の中しのおけいて今めれといふぞと[illegible]
蓬萊（ホウライ）をかざりて[illegible]し元日あしらの萊ご候のこゝろさと[illegible]
ことを[illegible]いそぐく 元旦のいてこ内をく伏と のふくら 元とあり
子乃日なるみ 保暦七年 元日唐の燈をともし初子（ハツ）日
とりの出申しハかいつ帝むかへて此乃みの松の食にもやうらん
こそが日を数ふる年も松又小萊代地あれの中ならびの果を又
ゆそしれそ川きく松乃中 ろそと おあらへし又拡をなぎ 萬
若菜（ワカナ） 初さうる わか菜摘 七くさ 寿うらみ 芹
すくみなし[illegible] 若菜つむ も丈とふら 賀とくら ごぎやう 仏の座
ろくりうし[illegible] 菜ゆひと申 千代の中菜 わかなも 初寅（ハツトラ）

番御（ブゴ） 岩寺天狗妻（テラテン／クサカモリ） 言 卯杖（ウヅエ） 卯槌 卯杖
正月上の卯の日 今も八木宮と五尺三寸つくるなり 二束三束
又ゆひて おほやけれさそとりしると此様といひし
二宮大饗（ニノミヤノダイキャウ） 二日 二乃宮とや 元中よりはすくるくロクト 又
朝覲行幸（テウキンギヤウカウ） 言 天子乃御所より皇后 又 母后 鶴の宮（ツルノミヤ） 二日
元日親王白家の宗殿大臣以下の上達部とともにおいのみ
すなわちあり宮よりわれにむこしねそておはしてやうや
三ケ日 うら白乃連歌 三日 たうやく 千歳万
御まつきら 松乃内 きあら 謡こと 胴（ドウ）
元旦かね 九日又 福（フク）
叙位（ジヨイ） 七日 叙（ジヨ） 履新之慶（リシンノケイ） 縁（エン）

向馬節會 七日 叙位 正月 靈亀元年
人日 七日 人と幢の頭を
辈 七日 美尾富実 七日 吉書 八日
御斎会 八日 女叙位 八日
大元師法 八日 常陸茎乃神事 十日 鹿嶋乃
奏の白馬あり 明神乃
事又云あり 年ごとに奉る事
除目 十日より十二日と三ヶ日に 叙位 十日 県召乃
儀 乃史仍て 任官 十一日
御斎会 十四日 内安 七日 悔過 十四日より
論義 十五日 御修 十五日
上元日 十五日 御薪 十五日 焼火
のまと 舎利と 唐の火
斬 かゆ 木 日 とおりく
くもこそそれ 女の勝をおひれ
その男也と 小豆粥 平安乃
行調粥
御粥 日 内裏 御神事 十六日 賭弓 十八日
飯 ごそうと 御弓 十九日 兵部乃
御覧 征夷 東

まうでゝそうんわ集 吉岡清稜 十九日 具足ノ祝
れれと来てなる事
ろう 二十日 二十一日正月 元日ぜんく 藪髪と数 天窓ろ
こゝ天乃浦ふ月正月よ仮のあうそ 実髪と
けるうそ 多つこれとうそも天窓さハりもや
久 下ち日 内喜 元日仁来 髪と 仔都波鴻
外記乃政好 吉日と 沖忌 元日 福寿草 元日茶
節振楽 東風 ろう 水かく音 こゝろ氏公ま
凍らくまて 水ひまあー水 魚水ろ八ろる 元ろの後
ろうをそのてもろ 五日ゟ根
言かろくろう 雪きゆる 祝言
雨ゟ乃鯰 正月 鯛魚と祭 水鳥轉
木ゟ同 下りそ 蓮玉 そのく 鶯茱 水入茱
名茱 秋茱 初まゆこそ まこまる 蔵箱
姉もゝれろうとめ ふろろう 野菊
根白草 茨子ゟろ
梅 このろる ろ代まま 白まま
紫 野大根 柳 川ゟ柳
春敬足茱 傷角根 行幸根 白まま
好久末 雪高根 毒暦 信濃春 根蚕
凡足茱 五柳 茶柳 ろう柳 川ゟ柳
川ろい末 柳ろ 同ろう柳 ろ 山名柳
鶯 ゆるひろそ 雑ひる 柳ろ 柳柳暖 ろ
春敬 雪乃笹 黄鳥 黄鶯 まこ 雪角 百千鳥

十九日 木地畑行 佐保姫 三月二 乃ぎこう 同じく
暁日 ゆふひ 消 還 かへる 雁 を 聞 て
万葉 春鶯囀
三月廿日 衣當衣 柳のころ 八重桜 松の花 柚
十九日 霞 三月三日ころ 藤の花 花ぐも
一ぐんの 霞 向 魚 同門 千鳥 青苔
霞 山椒の芽 野 老 ところてん
霞乃衣 蘿 蕨
霞乃洞 雲 麻 谷風 氏 ところてんの細切あり

二月 仲春 夾鐘 初月 小草生 二月
中和節 二月 朔日 暦 勤労節 二月 陽中 二月 初午 初午
東福寺 初午 日 対間寺 初午 日 本妙寺
泰 初午 朔日 祇園 二月 上丁 祭 上申日 園 韓神
繹奠 并十一月 祭 上申日 園 韓神
祭 上廿日 大原野 祭 上卯日 祈年祭 四日大祓 三十日 六月
祇園御講 八坂 列 三日
吉野乃桜 くもり

比良八講を初 其の結 二月堂 二月廿日より 聖徳
遺教経 九日より 佛名 二月廿日より 聖徳
冥福 社頭 十五日 十五日 十五日 十六日
念仏 二月 臨月 秋 社日 子の日 社前 子の日
寺家勝会 十九日より 清涼殿 十九日より 天王寺之聖
霊会 九日 北野 御忌 八日 道明寺 祭 九日
季御読経 二日 発 同出居 波岸 時正 時宗

曜念仏 彼岸より 踏哥 後宴 これハ三月廿日ゟ
りくる 蛇穴を出る 春の 蛇穴を出て 鳩巣
嘉辰令節 うぐひす 尾の長き
ゑる乃鶯 雛みきゝ 胡蝶 蟄
胡蝶 春場所 旅ゟ 色々 鶯
蛇穴ヲ出 ゑる 旧巣 旧巣
雲雀 ひばり 桜 ゑの別 松 雲雀
蜂胡蝶 芙蓉 のあるのみ 蜂巣 蜂
蛇 蟻 穴ゟ 巣ゟ 井迄

地虫出る　蜥蜴穴を出る　陽炎　猫の恋

いとゆふハ糸ゆふ糸　猫さかる　鯉

鯥　寄居虫　鮑　飯蛸　蜆　鯽の子取　田螺

初雷　虫おし雷　初稲びかり　八重の梅

雷代初声　黄桜　花を待　初桜　枝垂

桜梅　庭梅桜

桜　くまがへハうこん桜　ちござくら

糸桜　白玉桜　いと桜　二階桜　彼岸桜

桜ハ難く見えそむくにからのおぼへ也　鐘木　苗代茱萸　焼野　芝焼

畑とりやすき　苗代の　焼ある　荻焼原

畑うつ　田をすく　苗代　水口祭

韮　蒜のびる　ねぶか　野蒜　つくつくし　麻蒔

蘆の角　独活　芹　茶摘　土筆

杉菜　防風　つくつくし　根堀　山葵　虎杖　薺

かいわり　菜の花　菜　菊

若菜　紫　蕨　寒葵　蕨のわらび

ひとり　蓬　菜の花　大根の花

茅　川ちさ　海雲　鶯　蕨

苣　沢ちさや海雲　[illegible]

三月

弥生　花見月　桜月　夢見月　季春　中和　晩春　桃月　宿月　稱月

巳乃日祓へ　上巳　上巳の日水辺へ出て祓へして不祥を祓ふ

曲水の宴　三月三日　曲水の宴とて水に盃をうかべ詩を作る

桃花の節　三日　桃の酒　雛合　ひゐなあはせ

油花卜　三月三日

闘鶏　鶏合

御燈　三日

薬師寺最勝会　七日

石清水臨時祭　中の午日

鎮花祭　寒食

清明の節　三月

鬼の霧

住吉塩干　三日

粟津祭　一日

石山祭　一日

泉涌寺開山忌　八日

松尾祭　九日

高雄法会　十日

安良居祭　十日

吉野花会式　十一日

涅槃会　十五日

比良祭　十五日

比良八講　十二日

壬生念仏　十四日

祇園一切経　十四日

勧學會 十五 廿八日 源氏物語大意 廿四日 ふみと云仏盛 廿六日
草祭 十八日 御身拭 十九日 御出 中の午日 うつ 順の雫 八日
に続 此日 雨乱れて
鶯 初 二月 薄生初 鶯
永き日 遅き日 夜遊 侍 暮れ 雪 ゆき
三月 まゆ 雪 ゆき
燈と寒 三十日 郭公 初 巣 鶯 泉
鷹 巣 五月雨 昨日 雲 入 鳥 そのかへる

麦 菊 ひるがほ 二の巣 燕 蝶 燈 桜 貝 桜魚 桜鯛
桜うくひす 若布 柳 蕨 葉 魚 ゆすら 鮎
葵 ひこばえ 新葉摘 桃 桃林 桃花 桃水 桃酒 桃
己 櫻 花ざくら 桜ざくら 桜人 桜ちり
桜ちり 待 雲井ざくら 八重ざくら 山ざくら
布川桜 桜ちり 八重ざくら 散ざくら
桜もち 桜ちり 花ざくら 桜ちり
桜ちり 遅ざくら 名所 あらしの巻 かへ
死の雲 死亡雲 死亡雲 死亡雲 死亡雲

死の波　死の拶　死鳥　死乃えこ
死の高　死の扁　死の扁　死の扁
死の海　死乃もと白死乃衣　死の扁
死人　死のそうじ桶死生　死かご　死衣　死の扁　死の扁
死の車　死ほくろ　死ひとびと　死平
死の葉　死の遮　死乃ぶ
死の都　死の躍　死の撃　死の花　花榮　死のぐー
死死　死の鳥　死ちなるぐー　死ちぬー

死守　利本ひのもひのもひのほ
幸東　死の郷　死の躍　死の撃
死のぼー　死ぼうど　死のぼー　死ぼうど　山死
通草乃死　杏子死　李乃死　藤棚死
死丁死　木苺も　赤苺死　小苺乃死　小手
梅　小梅乃死　死の梅　馬酔木死
棟梅死　楝乃死　楊梅死
東乃死　合歓　死の藤　さうちうち

菫 つぼすみれ 芽をぬく 枸杞 五加
薇 蕨の毛 母子もちひ よもぎ 新茶 古茶 かきこ茶 茶つくし 菊
あづま菊 かうらい菊 秋菊 桜草 九輪草 馬蘭 又
えびね 金鳳花 華鬘 七重菊 下野 又
眉作乃花 一説に花を八重也 仙臺萩 菊植 暦
虎杖 三葉芹 茗荷竹 三月菜 三月
大根 金銭花 鶯乃実乃花 ぜんまい あら流
春雨 三月よ 弥生山 衣 表白 裏赤 つきかもと 山かしの衣

表うら 花うす黄あり うら山吹 表黄 裏 律じ衣 表 裏

四月

夏 朱明 昊天
卯月 卯花月 得鳥羽月 乏月 正陽月 首夏 孟夏 中呂 初夏 余月
更衣 一日 白重 夏衣の比乃 衣がへ 蘆 袷 一日 まをぬき 夏衣 一日 衣かへ
よそぎぬ 灌佛 一日 朔日より 清水 八日 稲荷祭 中 卯日 大神祭 三輪 卯ノ日
山科祭 上巳日 平野祭 上申日 松尾祭 酉ノ日 當广
祭 上申日 松本祭 同日 河内 宮家祭 上酉日 梅宮祭 日

水屋祭 三日四日五日 七月七 龍田祭 四日 大和 八月 使上
三日或八日 三月ノ彼岸祭 辰日 稽古 階奏 七月三月列見 九時成
七月ノ七日 仏生会 五香水ヲ仏ニ灌ギ 供備
麥こがし 鹿島ノ鳥屋 八日 戒壇堂開帳 八日 山門ニ有 山湯祭 四日
多賀祭 上巳 伊勢ノ祭 中申日 中酉御殿ノ連ニ人麻ヲ 中申日 山王祭
中ノ巳ノ祭 四月 吉田祭 中申日 賀茂祭 十四日 麻殻ノ連ニ人麻ヲ
三枝祭 元辛川祭 十六日三井ノ 吹漏祭 中ノ酉日
向日ノ神祭 中辰日 久世ノ祭 中ノ巳日 富士ノ祭 九月
沙羅 十四日ノ朝 五塔會 天王祭 日
祭 中午日 死供 廿一日高野大師ノ 秋祭 禄そろ
御影ヲ写シ 松茸 風ニ ちるハ秋ノ 梅天 小蕪ノ節 四月
煮酒 麦秋 麦ノ秋ノ風 麦 芋植ル
蚊ノ声ヲ 苔ノ花 苔ノ花ハ白キ 杜丹 杜若
五月ノ 蚤モ虱モ 苞葉 杜若ノ葉ニ

菱草 ニえ草 菱そう かくれみの ちりあくた
如月 五葉島 芭蕉 八ツ手 やぶ 蓋薇
茨 みち 茅ちやく かさくさ 海 鴨足草 岩菲
躍苑 茶ノ木 卯花 苑 名ノ知 みの
葉の苑 りうきう花 あふち 苑 つくし 紫 つけつかま
ゑま 三ツ葉 新樹帆柱 常盤木 盛木の花 桐の苑
苑柚 五人男 棕櫚 きこく苑
ほ蘭苑 まてしい くてくらの 山茶苑

厚朴の木 裁桜 横ぶえ
実ノ竹の子 名ノ知草 路
薊 刺根草 釜しもの
ふの外ニ 花はなそうき 田ノくろ み坂 ふの草 勢農ふ
蔦原も まつくし 蚊 蚊帳 蚊遣 ぐんこも
蚯蚓出 蜥蜴 蛞蝓 蝸牛 雨蛙 蛇
蚊 蚊帳 蚊遣 蛞蝓 指環 玉 蛇蟻
解鯉 鮓 塩魚 賊 生鰹 蟹 亀の子
いりこ 鹿の子 鹿の袋 南

五月

夕風や蝙蝠(コモリ)ぞちる卯の花(ウノハナ)くだし(フゲ)浴 卯の花衣
短夜(ミジカヨ)みじかき夜 一夜蝙蝠(イチヤケコモル) 夏入 夏行 夏籠
夏百日行 夏書 夏経 安居(アンゴ)といふ
さつき 月の名
皐月 よ菊月とつくを略してさ月といふ
さつきの月 仲夏 鶉實
賀茂(カモノ)競馬(クラベムマ)一日 松本(マツモト)祭 四日
菖蒲(アヤメ)ふく 四日 蓬(ヨモギ)ふく 四日
献菖蒲(ケンサウブ) 三日 あやめ
内膳司(ナイゼンシ)供菖蒲(クウサウブ)
山城の御国に
五月の節会(セチヱ)
あやめかづらいやめ人へ
天子武徳殿に出御なり
さてまゐる 群臣みなあやめを
て薬玉を賜られ 諸臣も菖蒲のかづらをまとふ
ゑいとかく御まへよりあやめにくくえをまゐらすなり
端午(タンゴ)
の節 端午 菖蒲(アヤメ)
あやめぐさ 根 菖蒲刀
あやめの太刀
菖蒲の枕
あやめぐさ くすりにおもひ

薬玉(クスダマ) くすりだま 長命縷 続命縷 蘭兵縷
菖蒲湯 さうぶ湯 あさけ
ゆうふる
続命縷(ゼンル) ちまき
五彩縷
薬降(クスリフル)日 五日
薬狩(クスリガリ) 五日
百草摘(ヤクサウツミ) 百草をつむ
あめふらすはこのむら芦あみきざみまつりて
かさかりもまきし
菖蒲(シヨウブ)
角黍 角粽 錐粽 菱粽 鉾粽 飾粽 九字菱
甲(カブト)
菖人(アヤメビト) 蒲人
天師とも云
艾人(ガイジン) 蒲人
菖ばかりを人のかたちにつくりて門戸のうへにかくれば
天師とも人形ともいふなり 又天師とも
蓬あるいは艾を人の形となしてかけあり
ちまきの
艾虎(ガイコ)とて艾を虎の形につくる
粉団(フンダン)とて粉をねりて団子のごとくし
或いはかやうのものをつくりて
水角飯 白餅
てんやむくもちのつめたきにいれて
粉団(ブンダン)と村(ムラ)へ 白粉を 水団子 酒をふくみて
いりて餅の中にあんの事なり

小角ゟ参候ニ付、村ゟ参て村ゟ桃印符五日 赤霊水符日日
有之、尤と合まいり桃印ハ門ニ張置、赤霊水ハ百ヶ日ニ
ゟ百日ニ至るかとりてのミ或ハ家内ニ病人有之候ハヽ
参候よし、其ノ節ハ桃印ニ而ハ不参、赤霊水ニ而参候
よし、もも湯ハ午ノ日ニ入ル
たくうん 金て物買ニ遣ス事ニ用ル
象乃巻 鳥ゟおぐり
鳥乃絵ニ而ハ無之、鳥ゟ出ル事ニ用ル
鏡底免車 水馬 五日ニ用ル
騎射 五日 左近乃桜 ハ五日ニ用ル
是ハ五日ニ限ラス三日ハ右ニ而ハ不参、三日ハ左ニ而参候
端午ノ節句ニ付、五月入日ゟ五日迄ハ門ニ菖蒲ヲ葺ク
事ニ候、尤ハ五日ニ限ラス三日ハ右ニ而ハ不参、三日ハ左ニ而参候
端午ノ節句ニ付、五月入日ゟ五日迄ハ門ニ菖蒲ヲ葺ク
事ニ候、尤ハ五日ニ限ラス三日ハ右ニ而ハ不参、三日ハ左ニ而参候
京地 神水 端午ノ時ノ雨
作よろしきよし
五日ゟ降ル雨ハ稗ノ実ニ成ル
粽ゟ 五日粽ヲ食ス事ニ用ル
祇園会 六月 ゟ月ゟ 境ゟ 賀茂ノ競馬
今宮祭 十五日 室ノ神祭 十三日 藤ノ
有志ゟ 日 十五 寂勝講 清浄ニ行ヒ
芒種ノ節 五月 佳吉ノ神田植 八日 大原志 日 山田ニ而ハ

すゞ蚤蚊 五月廿四日 富士垢離 蟬の初聲

富壱へ 玄蒜川 藻の花 藻とる舟

藻刈歌 蓴の苑 百合 車百合 茨の苑

うみこゆり 茅の輪 木橋苑 石菖苑 菖蒲 金銀苑 下野

蕙 苑蘭 夏菊 朝顔 草

凌霄 ありとをしらぬ 天蓼 敷帳の衣

かくれみの苑 麦飯 きりひさ 蚊遣

藁苞 茄子 早瓜 苦瓜 苗胡桃

南天の実 さゝげ 生姜 苑柘榴

柿の苑 紫陽花 橘

檸檬 ちんくわし 柘榴の苑 ちゝろこ

李の実 枇杷 青山椒 ちゝろこ

甘藷 青田 田あぜ

栗のいが　稗秬胡麻むぎ　とりくハ八月ごろ

そしてまろひく　初冬　十月

蚊を火　蠛牛　蜘蛛

水馬　雉鼠　蚊のまつげ　ねとこ虫

水鶏　さや鶏　毛とり

鳥　猪もとうふ　鶉　羽の芽

鮓　鹿み　紙狩　ねぎ

鶴の巣　干鯣　干鯣

蒸玉　竹魚　小鯵

津走　水鯨　み鯵

蛇きりく　さゝえ

鳥　鳥蒲惟み　鳥

六月

氷室　一日ひるがらさ　氷のもの　氷室の掟　氷室

供そう　朔日　七日とう　十日祇園会　一夜酒

六月會　四月　淨躰　御トト

土日　十二月　土日　六月

まゐる　古参　十二月二夜　祇へ　仲て

する　月次のみ

くそくそまろ

をんこうまし　神今食　日　解斎　御所　土　旧

祇園會 七日 長刀鉾 月かと 三かんこうとき 稚下りくるとのかこ 稚下りくるとみかりく
郭巨山 孟宗山 四条猿山 くらま山 白楽天山 芦刈山
くるま屋台の下絵より写 高砂の能 おの 同 十四日 橋弁慶山 鶏山 八幡山 鉦鼓の作物 無かりく
ともし 同 十四日 くみまつり 十五日 祇灯 ちまき 十六日 後の行き 北野 天神 参詣人
清水 塔参 十四日 くみまつり 十五日 祇灯 ちまき 十六日 後の行き 北野 天神 参詣人
いけ 十七日 風あらし 十八日 雨 十九日 雨 二十日 雨 二十一日 雨 二十二日 雨 二十三日 雨
五条 十四日 桐座 嵐 二十五日 祇園 北野 風 二十六日 雨
新宅 食 伊勢参 礼 十六日 お遠 鵜

多まつり 十六日 志渡寺参 十七日 庚申 六条 十九日
富士講 一日より 七日まで 市
鍛冶 作物 九日 名古屋 二十五日 雨
天満天神 御祓 三十日 大坂 庚申 参 二十五日 雨
於茂水 参詣 三十日 伊吉 御祓 月上
翠簾 まつり 四日 節 折 二十日 十二月 支度
大祓 三十日 川祓 くるくる 人形 後
茅の輪 くぐり 形代 川 流す 事 これ

第八物 毛布 夏かけ 夏ふとん 小蝿うけ 小蝿の
夜着 後は川ゆき 棚とりまく
川ヤナ 来 ヤナをもりの事
無筆ヒツ 注文帳 四日下知氏の人
書ショ 通夜 四日四角四東の
通夜 ふとん 施行 雷鳴
施行 雷鳴 冷 雷乃字三文高くなる
やとこしけるゝ 雷也
小暑八節 六月 蚊帳
廂より振て 暑をふせぐ
大暑節 六月の 溽暑

腐気雲となる 乃川き日 夕立
天既節 六月 三伏 支干庚の日と初伏とのび
日 庚と来伏と中伏との三伏乃通変物
の庚と伏という 出行 扇 扇車 扇子
扇とする 出精 用意 扇子 秀逸
夏季 竹取 竹取人 涼 納涼 涼しき
夏季 抱籠 肺 風 夏乃風
暑 暑中見舞 夏乃風
日傘 いづみ 泉水 泉殿 汗拭 汗
新井 六月の井とのゝ暑をふせぐ
むすび 氷 氷室 氷水 氷酒
むすび酒 今とこうんとのむ

葛水　干飯　煮冷　なら漬　鯖すし

はく　支切茶　梅ぼし　梅干

李　林檎　百日紅　梅子　桃　揚物

川柳「ところの石竹　蓮　白き　うす紫　花　澤瀉

浮　汚骨　芙蓉　蒲の穂

汚雲　うろこ雲　うまみ雲　流れ星

薗ど刈　日和　鉄線花　竹の皮取

降る最中　鬼灯　鉄線　眼病　かうほね　凌霄花

鬼尾の毛　風菊　釣瓶落し　銀

麒麟草　村千一説ゐのこ草　蕎麦灯

いもの葉　赤草　水　麻　支川の茶

もろの葉　麻もとろろ汁　一寒ろ

うらて　秋ごち　炎も焼し

乃む　香薷散　炎霜　乱れ髪

洗ふ　姫瓜　糸瓜　支川の茶

益母　夕氣　干瓢ひく

熟麦　南瓜

小角豆　ねりこ　雀

鶺鴒　鷹　蝉

とんぼ　火とり虫　蛍

蛇　蚯蚓

蜘 毛虫 金亀子 蟬 こおろぎ 蛍 蜩 鈴虫 鶉 鮒 鯉 鯰 掛香 任吉曜 荘周 州 蝠 四月

七月

初涼 新涼 餘暑 朔日 楸

三秋

七夕 孟秋 初秋 孟秋 仲秋 季秋 秋のくれ

〇秋 白藏 昊天 金商 明粛 粛殺

ふみ月 涼風 夷則 相月 ひさご 一葉 柳蔭 萩 柳 楓 芙蓉 木芙蓉 北野 菊 菊の延命 菊の盃 二日 登菊

蜩 毛虫 金亀子 蟬 こおろぎ 蛍 鈴虫 鶉 鮒 鯉 鯰 掛香 任吉曜 荘周 州 蝠 四月

七月

初涼 新涼 餘暑 朔日 楸

三秋

七夕 孟秋 初秋 孟秋 仲秋 季秋 秋のくれ

〇秋 白藏 昊天 金商 明粛 粛殺

ふみ月 涼風 夷則 相月 ひさご 一葉 柳蔭 萩 柳 楓 芙蓉 木芙蓉 北野 菊 菊の延命 菊の盃 二日 登菊

梶り衣 [illegible] 乞巧奠 [illegible] 乞巧針

[illegible]

七箇池 百梨の池 [illegible]

梶乃葉

芋乃露 [illegible]

七月七日御節供 内膳司 [illegible]

本願寺門跡乃節供 七日

索餅 [illegible]

飛鳥井家七夕乃鞠 七日

[illegible] 八月 [illegible]

六道参り 九日 [illegible] 六道 [illegible]

[illegible]

清水寺千日参り 十日 中元日 十五日 盂蘭盆会

[illegible] 墓参り

七月 [illegible]

生身玉 [illegible]

燈籠 [illegible]

小町をどり [illegible]

[illegible] 十五日 [illegible] 送り火 十六日 [illegible]

新婚 [illegible] 十六日 [illegible] 盆 [illegible]

さるたもすくらは出るつくてく人は　懐妾座乃記　十五日　今八
盛の足く入見を御生みる事也　十二月十五日
利玉愛草　御所の代便ある夜代日過をりくく
うり草　茄をつるひ、且哉よ庭をひらく記火　水
みをこらせ氏ヲイ　地蔵祭
人の藁のもまーやて
祭　六七日　みくふ場　こ行や［illegible］
七月廿一　祝ほて於浮て　六四日
御長祭られ出　廿十八　御盆供　盆の前　夜しのうらやへ
露　ふくあ　いくらの紙さく
ふう行あ　めのあ　十八日　くらかんゐ　こをすまん
参え高　御のあ　つきの［illegible］
大風　相撲　はをとすまん
おくきの風　生吹乃風ひくらむ　天の氏　まつよもは客り
青　りけらうく
細目のあの　つま暑さ
蘭の香　青八年りと　立入
初嵐　ほまへ　めて　まよね

ひやゝり　ひや　葵　廟盟　艶饗　檀ゝ華記　新
とくあへし　世帯花　銅鏡　七年十　名の記の
実　萩　長萩　小萩　うしろのに　りくいつくれくれの　今夜覧
萩の花　蕗　芭蕉　所あり清涼殿のやく　らくよ　一日の
萩は戸　禁中　萩ある　小車乃記　桔梗　葛の花
萩　行まれのと　萩の上風　おや棚乃記　ラしきと　穂の花
萩の下とき　物なし　萩は行くまにとまへし　おみを　桐一葉
ちく花白　しおくしく　茶根　桐葉落
茄子　荒草　藤袴草　観音草　翁草
ちよさくて　木賊

めやかむ遊
りやなさ
檀特花
はさ
葛
えびづる
花壇
野菊
綿つけ
百夜草
そそしれ
花紫　むしさたのま　藍乃花　あかね
ちとよ　紫蘇　とかの花こ
まくらじ　ゆらじ　りし
くずの花　葛は根をかる
鳳仙花　ほうせんくわ
鶏頭花
いまきれ花
かま
うつし草
茜香実
払子
丹の草
根
月草　まつよひ草
まつよひ草
金剛草
てさぐ　鴨上戸
通草
蓼の花
廻り風
牛房
萩
萱　そらの
苅萱　しのぶ
萍
綿やる
えん
鶴
苅りもの
ひとつ
てらの
葛葉蔓
かるかや
茶川　とうやく
りし　つりがね
ゆりの花
小嶋
蓑鶉
鴫
鷺
駒鳥
雁
小鳥渡
色鳥

ひや　まんちゅうく　てうしゅ
門まつ　ありそうり　みそ門の
もとの　小袖　かくわり　賜　鶴のまう
まのさ　小袖　きうさい　休の墓
うう　　　　　　　　　　鶴亀
そうまつ　寿る　打　ちう刀血
　　　　　　　　　　　　　下
　　　　　　　　　　　　　ちう
波紋　ある　下薬　やみ
さわり　　　　　　　　　　康
家る　無の書き　康台　　祖縫
　　　　　　　　　　　　　絶
八月　ちう　煤ハ田　田の亀　田れ
ちうふ　　　　　　　　　　
ちうひ　　　　　　　　　　
　　　　梅　編す　編両　指
　　　　　　　　　　　　　州
　　　　　　　　　　　　八栗
　　　　　　　　　　　　義板
　　　　　　　　　　　　亜木川

神ノ　宴　山み　そば　ト　板　ちみ
九月　ある月　ある祭月　小男月　林芝月
　　まち妖　　　　　　　素祭　　素祭
秋のあ　　　　　　　　　　　　
まの様　　　　　　　　　　　　
御灯　三日三月　不堪　ハ乃奏　十日
　　　　　　　　　　　　　　
て祖秋　　　　　　　　　　　
重陽　宴　九日　重九　楼ハ　泉涌寺　会
　　　　　　　　　　　　　　
醍醐　祭　九日能　御香　貴布　祢祭　九日
　　　　　　　　　　　　　　

十八日 御祭 十九日 御祭 十一日 佐倉桐擇舎 十三日 佐
吉祥市 十三日 ともゝり 白河 御祭 初日 浅草 和国
すゝき 三夜 まで 多用 業務 月のうるう
すぐ秋の用 月のうるう 天王寺 一条舎 十四日 岩倉 条
十五日 小倉 祭 十五日 放生会 天くみ 雷雨 ひゞき
一二六条 祭 初日 神田明神 祭 初日 慶会 会新堂 葺
舎 十六日 いとう 芸濃 祭 初日 山口 祭 中日 呉服 条
十八日 あめ 女会 宮町 有 八日 孫庚
日待の 地田 まち 盤梨利 祭 九日 八 情報 うけ
城南寺 祭 九日 仮 祭 九日 仮

天王寺法螺灌頂 十日 亡 条 条 十三日 陰 条 十三日
天満祠流馬 十一日 大坂 来情 報
逆修 祭 初日 小山 家 八日 稲
みぶ 八日 伏村 佐山 野々宮 八月 九日 桂川の御祓
宇霜月 祭 九日 薩峠 とある 業乃也
菊 商業 得意 先 菊 大会 菊 菊童 衣 残 分 菊 十日
懐石 料理 そえ物 秋 秋と 好 ても 好 丸 柚 小袖
菊童 衣 西業衣 絹降 八幡 祭 一日

蔵蹟（くらあと）　紅葉の名所（もみぢのめいしょ）

いろ〳〵あつめ置（おき）て秋（あき）の景（けい）

木蔦（きづた）　楓（かえで）　櫨（はぜ）

楮（こうぞ）の葉（は）　桐（きり）の葉（は）　いてう　銀杏（ぎんなん）

椋（むく）の実（み）　柿（かき）　落葉（らくよう）ひろふ

金柑（きんかん）　久喜毎（くきごと）　柚（ゆず）　佛手柑（ぶしゅかん）

別錄（べつろく）　林檎（りんご）　梨（なし）　栗（くり）　柘榴（ざくろ）

胡桃（くるみ）　苦栗（いがぐり）　榛（はしばみ）　椎（しい）

楝（あふち）の実（み）　西瓜（すいか）　枳殻（からたち）

橙（だいだい）　野ぶだう　南天の実（なんてんのみ）　梅擬（うめもどき）

柊（ひいらぎ）　仙蓼（せんれう）　錦（にしき）　紅葉（もみぢ）

苧の穂（からむしのほ）　苧の花（からむしのはな）　薄（すすき）

さんぐさう 冬牡丹の一種 えやみ草 つくうん
つくんぐさうと云 葉に斑点あり
わさもの 紙莫大乃 花 芫花 おりの
莞豆 文豆 陸奥 ひく 葛 猪 くさひら
あくうけ 茶茸 ト伝 いちご 蔦 松茸
ゆきのした 柳うり まくさの雨 天狗
正絹 晩田ひとち田 新開 おどろ
春風草 お茶 今茶 染取 松葉
しま葉乃玄黒 紅粉 鮒
尾越の鮒 網代 衣打 小鰭の鮒
春宮 肌寒 秋立

ちさ うそさむ 雷鳴陽鹿 紅葉
棚かく 新綿 一そくさう 綿打 金花
色さ夜 暮煤 秋雨 秋立ぬ
冬ちか 冬ごもり 任官 秋遊 三十日

十月

○冬 元英 上天 玄帝 陽月
かみな月 時雨月 神去月 小春 孟冬 陽月
上冬 良月 玄冬 新末 孀正
此月を孫冬月 子ノ月 伊勢月 開冬 ともいふ
又かんなづきの事 十月を神無月 久月 ともいふ
又衣更着 又衣服更 ともいふ
更衣 又ころもがへ
孟冬乃旬一日 神遊 一日往来

おりふるを　一日庵の人食之し　進炉上炭煨甘藷
焚燎　一日庵の法人　炙冬至節
冬至　冬ごもり　村場酒
他てのみくらす日ー　達上人忌　十月廿日
冬ごもり同ー　興福寺法印舎　六日　維摩会　十日　金光明会　十日
さむさ　押入諫十三日　下元　十月朔日　水底解氷
東福寺年忌　十六日　炙講　九日　大祓　末辛　中晦日
氷集　出雲　氷の留主　氷迎　小雪前

十月　十日より大雪　九日　炭焼きの開炉之義
桐火桶　炭ひ　初霜
初雨　初霜
青女　霜の異名　落葉　木枯
おちつもる　柳もつて　水仙
楊　枯野の雪　雪かこひ
荻　菊　雪折
枇杷の花　茶花　冬牡丹

帰花　八月ノ花　蕎麦　大根　菜蒔
納豆汁　初雪　初氷　薄氷　さゆる　網代　あられ
霜　氷魚　ひとの使　鮭　水鳥　千鳥　初無月
千鳥　葭雀　初雪　初霜　月さゆる　狩人　寒夜
あられ　網代　氷魚　ひとの使　鮭　水鳥　千鳥
初無月　葭雀　初雪　初霜　月さゆる　狩人　寒夜
あられ　網代　氷魚　ひとの使　鮭　水鳥　千鳥
初無月　葭雀　初雪　初霜　月さゆる　狩人　寒夜

鴨鍋　雪中庵

炭竈　白炭　黒炭　薪　炭俵　炭小屋　炭竈
炭俵　炭小屋　薪　黒炭　白炭　炭竈　炭俵
炭小屋　薪　黒炭　白炭　炭竈　炭俵　炭小屋
薪　黒炭　白炭　炭竈　炭俵　炭小屋　薪

鯨　鯨汁　鯨鯢　鯨
鯨　鯨汁　鯨鯢　鯨
鯨　鯨汁　鯨鯢　鯨
鯨　鯨汁　鯨鯢　鯨

雪　雪垣　雪竿
雪　雪垣　雪竿
雪　雪垣　雪竿
雪　雪垣　雪竿

十一月　神無月　霜月　師走　雪見月　年内
十一月　神無月　霜月　師走　雪見月　年内
十一月　神無月　霜月　師走　雪見月　年内
十一月　神無月　霜月　師走　雪見月　年内

暦奏　一日こ
朔旦冬至　十一月朔日冬至をいふ　是を嘉瑞とす　一陽来復の節　冬至ハ一陽来復　十月ハ六陰の月也　一陽の節　宮（？）…
叙位　…
ひろくしは天地に…是をいふ
とろうる…
禰宜　上卯日　…
春日祭　上申日　大和住吉大社…
平野祭　上巳日
山科祭　上卯日
梅宮祭　上酉日
宗像祭　上卯日
松尾祭　同日
当麻祭　同日
松本祭　同日
中山祭　同日
高宗祭　同日
宮祭　上卯日

大原野祭　中子日
園韓神祭　中丑日
吉田祭　中申日
平野祭　同日
厳上閣（？）　…
豊明節会　中辰日
新嘗祭　中卯日
鎮魂祭　中寅日
五節　中丑日
童女御覧　卯日
賀茂臨時祭　下酉日
月次祭　…
三條御神楽（？）　下卯日
賀茂（？）…

月落の　氷　日かけの　神　神楽　初春
庭燎　深　奇　大　張　人　人
小　千歳　早歌　皇　門
みすまりの　谷　杉玉　注連　鳴
大　大神　佛

二日より　九日
八日まで　御よる
夕　夜見三番　市　侍
宵宮　山　氷　初　氷室　雪　雪　氷　氷　氷
氷柱　凍　凍　氷　太　人参　冬　玉　水　水
盃　盃　白　白　白　白　白　白　白　白
得　白　白　白　白　白　白　白　白　白

鳥立之墓　教訓草子　より為ま　力蓄

龍蛇　追々の将　爐香　三を蓄き　鐘をくゝ

おくとくら　うとらゑ初鰤　鯱　石花　仕丈魚　とりんのうる

あくらひ　玉子酒　生姜酒　粟湯　葛湯　しく

臘　十二月

凍　寒指　縁賣　雪車よ乃る　橇

をさめ月　春待月　三冬月

臘月　梅初月　大呂　極月　季月

びうしハ紙衣を中にてかこうひて寒汁ひらめくらしるやう

く致よ仲冬月とハ寒さ暑しておほいとくらし

乙子朔日　悪火の御仮　一日六月より

なほ乃ゆへ　おまし

天神祭　廿五日　天智天皇御國忌　三日

御鎮乃御白奏　四月よ十日六月　同し　月次乃祭　十一日　神今食

同日六月　正月事始　十三日

はなむし

ねかき　織綿　栢梨勧盃　十三日　御仏名　十九日より

御髪上　古年の　荷前

像ゆ　大き内裏

着衣乃　内侍所乃御神楽　奉幣

寺の灌頂　十五日　温糟粥　八日　臘八粥　大徳寺　開山忌　廿二日

煤掃の祝事　晦日夜　和布
廻礼晦日夜より元日朝迄爆竹音
おやこうるさし
とうとう　大晦日
いくよ寝ると
大原里雑喉魚の秋
小晦日　吉田の大根
大晦日　除夜　鶏はつこと
年忘　年越
元旦　若水
八日　鏡開
門松いとなむ
まつと陰
れ俗　衣配
餅つき　餅花
飾臼　神酒
年玉　年礼
宝船　初夢
書初　初荷
年賀　年始
年玉　年忘
筆初　雑煮
八日　鏡開

早咲小松　盡一字作句

右四季の詞の外を盡一字作句
てうづくもあるべきことの
羽ざゝの草通花の間まの
雪の夏六句をあつらへくべきこと
ゆふべいさゝかなる事
書載ゆるすべからず

圍面八句　作紙尺長短高下ともに
ゆるすべからず　尺長高下ともに
し股あるもよろしからず
發句一座の褒詞を
多くもうさず但千句の
らひの傳をもとべきこと
切ニ共そこ〳〵の
細やかにくわしく
句ごとに一句ごとに

乃此句ハ一家様より承る格式之眼の句文字ニそ
しける殺膝前に文字乃うへはかりをもちやうにして
うまりそれ字あまりありてさゝる趣も然殺り
萬膝乃句ニ而も先をとり先で前ニ唱へ第三と文字二て
やすらふ　二句目ハ五ニ三すゑ　但やすらかなる事ありかて
第乃人を清のたへ付ハ乃かへせの是ニ而得る是
此道乃ならひ也

四句　四句めふりうそて也なりある見つさまを付り是ぞ此まく
やすらひかるとよしとさまとする也

五句　第三てなりあつらしかる字あらし句あしきうちてる句も
よめるもとたちの前で移ふあらいかり初の面よ同字
とかいふも懐紙の面とみるし五字をあふてまうるこそね
字ハ句の一体なれハ面道具之此句を今乃うし句しへ
七句めかくかへ見りしまへを篤れなものそれへて出る
句る法ふへ句しかす侍乃あまふあらハ句体と是非と
見るく世ハりへてて句の付きか嫌あをしるて用

六句　別よ子細なし　面ならハ七句まくぬやう云いてもし

七句　こゝまでを月とらぬ此所月の定度之功ろ出づる

べし第三ハ後ハ上乃句と難題して裏中にいうも
月花句又一巡の後ハ執筆乃句なきて其時句と尭
多の句と定むる也

八句

七句めより細にて此処にて月花をとりてもよし自然ハ
まへし又面の中国字ハ書へしとて而て其れ外ハ
二句まではくるしからぬ也去れハ是非の世乃話事ハつくし

裏

連歌とハ替りて九句めより神祇釈教恋無常述懐名
所名残傷何出しも表之六句めに書れと仕出だれす句ある
るこそ植物訓ず可ならぬ其れは何れも斯く嫌ぎて自化

乃句出くるとも難なく何もなは宜き句出らるも
表にかけ申すとも花と月とを兼とひうへ今の替句なるを
もれ付句に花有べし

裏

初折乃一巡しよりくみつくとまた句をいけられ候成べし
挙句ハ付けるにかららさる也是ハ二句より嫌ふく付あるべし又
二座乃興もきひしる句之兵かゐくと付かるべし又挙
句ハ案じて知るもいへり是ハ多く分前句ハ皆成ゆへ
第三折乃むつ付けるる句とも是れ氣と替て揃合乃
外乃物と名所し　發句とり二巻れ着丸とさひ合

其裡乃心をとあらし然ハ何乃句へ成とも遣りし
作らく哉こめよる句作も風情よろしくべし発句
抑此着何ハ此ハ専ら季乃授みわらもと又初乃一丸よ
執筆も大切なくた元来句執筆乃役之又発句よある
文字なと嫌之

㊂百韻月花定座

面八句　七句目月花定座

二ノ面十四句　十三句目月花定座

三ノ面十四句　二ノ面ニおなし

裏十四句　十句目より月乃秋ハ十三句目花の定座なり

二ノ裏十四句　句わのことをおなし

三ノ裏十四句　二のことをおなし

名残面十四句　三ノ面ニおなし

名残裏八句　月おなし　七句目花乃定座之

百韻月花乃句ハ表紙乃をもれなれし両着ニゆかりて縄ニ恥
なれし事もともよ風のゆくしよれ不随なるへく

● 四十四

ましさ云ハ百韻乃法を初わりと名残ハ折ことニわりかしさく
二三乃わりをねさくる也之月花ハ百韻乃法を用なる也

● 歌仙式定

面六句　五句目月乃定座

名残面十二句　十一句目月乃定座

裏十二句　八句目月乃秋の句ニて十一句目花の定座之

名残裏六句　五句目花の定座之

畫作席可以青笑恍

新宅ニ會さゝ燃ゆくはなどの木ともいこ手想ひ出ゝ

乃宇吉墨汁ニ遮蓋ゐ

うふ道ちこゝやうれまし

ゑこゝろすゝくちく決ゝ及ひ真ゝ不眞ゝ

なゝこゝろゝ一ゑ連京れ

きと心靈すべゝ

てたゝまゝ

一出夜連泰

一笹庭ゑとゆる

一良當衣佐ゝゝ路不お邊

一高吟或報談

一婆人或兒一同吉吟どる

一他ゝ白狼況紀ゝ白通自ゝ

一自ゝゝ白住ゝ問産ゝ立

一来産ゝゝ白教と好同雪

一瞳眠ゆくび等

一狼ゝ白禁ゝ

一陽度ゝ人トゝくやく

一自ゝゝ白ゝゝとる同諒とる

一ゑ車ゝゝ路念ゝる

一若之外ゝ白産法今方とゝ

ゝ初学ゝ人ゝゝ

㊁ 執筆ノ法ノ様

一手ヲ支度ヲ安ク貴人家ニ近ク親ヤカニ
ムツカシクナイト一礼シテ始ル事
其方ヲ人ヲ人ノ人ノ
扇ヲ取ル我ガ
ル事ヲ水トモ
筆ヲ二筋ヲ
ヒロケテ中ニ
際ニ

執筆ノ法ハ右ノ人指ノ
ヲ右ノ腹ニ当ヘ
考ル事人ノ
一張帋ヲ
ヲ外ニ
モ
久ク懐帋ヲ面ヲ
一通ノ

こゝに妻人〻二面ありて互に争ひ居る
一男ありて双方ともに我妻なりと主張
あればいづれ一人ならざるを知れども
一妻人の常白く被布を着せ
居る人しき妻人は白い被布
をきこゝに紛れをとりて被布
をぬがせもの〻やうにやうてこれをぬいで被
二妻想は合ふ故白をぬがせ
一妻想はざる故帯をとらんとす
慌忙とめて到底ならざるを知り

ひらきて統治者たる
強権を濫用之譏諧とらざる
服ぬまゝ〻で置くがよろし
妻をくらんの如き事
を統治者たるものかぐ
一妻人妻の白き衣を取らん
御覚束の白い被布
て妻人御覚束の名をとる
肝要〻指令なくとも